

ハワイ大学臨床推論 WS に参加した成果

1) 留学・学習・国際理解への意欲に関して参加前/後での変化

参加前に関しては、英語圏への渡航が初めてだったので現地でのコミュニケーションに不安がありました。そのため、難しい単語を覚えることよりも簡単に言い換えて伝えることを意識しながら会話をしましたが、実際のニュアンスを正確に伝えることは難しいと感じました。

これからまた英語圏で学習する機会があれば、英会話に重きを置いて練習すること、特に発音を意識することが大切だと思います。

ハワイ大学医学部の学生は4年間大学に通ったあと、4年間医学部に通い、2年間の研修を経て医師になることとなります。また、医学部に入るための倍率は州内だと4倍前後ですが、州外からの応募を含めると30倍以上と非常に高く、実際に在籍している学生の学習意欲も高いと感じました。医学部在籍中のアルバイトは原則として勧められておらず、ほとんどの学生が学習とクラブ活動を生活の中心にしていました。私たちが留学した期間は夏休みとのことでしたが、多くの学生が大学で学習している姿が見受けられました。

ハワイ大学の医学部では、学生が学習するカリキュラムの多くが実践的な臨床研修に基づいて構成されていました。特に、患者とのコミュニケーションや医療記録の作成、チーム医療の手法に重点が置かれており、座学だけでは得られないスキルを早期から習得できる仕組みになっています。また、学生はクラブ活動やボランティア活動も積極的に行っており、医療知識だけでなく社会性やリーダーシップも養う環境が整っています。

私たちがハワイ大学で研修したように、ハワイ大学の学生は高知・佐賀・大阪に2週間ほど研修に行っており、そのほかにも中国の郊外やポリネシアなどでのプログラムもありました。このような留学先が選ばれる経緯には大学同士の提携関係の他に、ハワイ大学の学生によると「ハワイでは都心部の医療について学ぶので、郊外で病院や施設があまり整っていない地域での医療を学ぶため」といった理由があるのではないかとのことでした。

佐賀大学では、授業や課外活動を通して離島医療や訪問医療について学ぶ機会が多いですが、逆に都心の医療体系について学ぶことは少ないと感じました。そのため、今後は自分から病院見学などの学習機会を積極的に得る必要があると考えます。さらに、ハワイ大学の都市部・郊外での研修プログラムは、地域ごとの医療体制や患者層の違いを観察する構造になっており、医療資源が十分でない地域での診療体験は医療の公平性や資源分配の重要性を理解する上で有効であると感じました。

国際理解の観点に関しては、ハワイには日本文化と共通する点が多いと感じました。5年ほど前まではハワイで最も大きな民族が日本人であったように、現在でも4世や5世の日本の血を持つ人が多くいました。食文化に関しても、生魚を食べる文化や、日本人がハワイに持ち込んだ食べ物が多くあり、親しみやすいものが多かったです。

一方医療制度は日本と大きく異なり、国民皆保険のように全員が医療を受けられる仕組みはありません。保険に加入していても医療費が高額になったり、そもそも保険に入ることができなかつたりする人もいるとのことでした。日本の生活保護や児童養護施設とは異なりますが、ハワイにはシェルターと呼ばれる、ホームレスの方が家族で一時的に寝泊まりできる場所がありました。しかし、道端で生活しているホームレスの方も多く、その衛生環境は悪いと感じました。

2) 次の海外留学への関心

私は将来的に、さらに長期で専門的な海外留学に挑戦したいという強い意欲を持つようになりました。短期のプログラムでも多くの学びや気づきを得ることができましたが、より深く学問や文化に触れるためには長期留学が有効であると感じました。

また、次の留学に参加する前に、自分の医学知識や基礎的な医学英語を改めて学習する必要があると感じました。日本の他大学やハワイ大学の学生と関わる中で、体系的に知識が形成されている人は、臨床の場面でも必要な知識を素早く引き出すことができていました。

医学英語の学習においても、単純に日本語訳と対応させて覚えるだけでなく、周辺知識とあわせて理解するなど、工夫した学習を心がけたいと思います。

佐賀大学では、ハワイ大学のほかにドイツ・マインツ大学や台湾・輔仁カトリック大学での研修プログラムもあるため、そのプログラムに参加できるよう自己学習を進めていきたいです。海外留学を通じて、異なる医療制度や文化の理解を深めることは、将来医療従事者として国際的な視野を持つ上で重要であると考えています。

ハワイ大学臨床推論 WS に参加した成果

1) 留学・学習・国際理解への意欲に関して、参加前／後での変化

参加前は日本とハワイの学習の差についてあまり理解していませんでしたが、今回実際にハワイに実際にいったことで実感した事が沢山あります。カリキュラムは確かに日本と海外で全く違いますが、自分の知識よりはるかに上をいていたことや将来に対する考え方、医学に対する姿勢が何倍も凄かったのが印象的です。朝早くから学生さんたちが1人で勉強したり、協力して学習を進めていました。カリキュラムについてはハワイ大学はPBLを本当に重視していることに気がつきました。自分で学習し、自分で知識を物にしていました。知識について実感したのは、PBLを一緒に行った際に、自分たちは基本的な知識しか出せなかったのですが、JABSOMの方は自分たちが分からない単語があったらそれについて細かく図を出して説明して下さったり、自分たちがより良い解答に繋がるように導いて下さったりしました。私の中では知識がまだバラバラで繋がっていないのが、JABSOMの方はきっと頭の中ですごく整理されているのだと思いました。だからこそ、私たちにも語学の壁があるにも関わらず、分かりやすく説明して下さるのだと思いました。

将来に対する考えた方については、JABSOMの大半の方が将来なりたい科や将来働きたい場所が決まっており、将来がほんとはっきり見えているのだなと思いました。その自分の夢に向かってとてつもない努力をされていたことも実感しました。自分も曖昧なままではだめだなと思いました。

国際理解については、文化が日本とは全く違いました。ホームレスがとても多いことや患者さんとのコミュニケーションについてです。ハワイはとてもホームレスが多く、ケアがとてもしっかりしていました。お金を渡したり、ご飯を渡したりなど日本と違う点にも驚きました。患者さんとのコミュニケーションについては、授業で教わったのですが、科学とコミュニケーションは1:1とおっしゃっていました。患者さんに心を開いてもらうためのテクニックもたくさん教わりました。私は英語がペラペラ喋れる訳ではありませんが、心と心が通じていれば、仲良くなれますし、上手くコミュニケーションが取れなくても、相手を知りたいという気持ちを持って接したら絶対に心を開いてもらえるということがわかりました。これは患者さんとのコミュニケーションをとる上でもとても大事だと思います。頑張っただけ聞き取ろうと努力すれば、徐々に聞き取ることができることもわかりました。伝いたい、聞き取りたい、相手を知りたいという気持ちが本当に大切であることを実感しました。この留学は自分の一生の宝物になりました。

留学については、ずっと留学に行ってみたくて口では行っていたのですが、大学に入り、なかなか行動に移せていませんでした。ですが、5日間という期間や日本人の学生もいるということもあり、大学生の初めての留学としてとても参加しやすかったです。この留学に参加したことで、今後自分の将来に向けて、また新たな1歩を踏み出せたと思います。私はこの留学に参加する前は、日本に来る外国人の方を言語の壁がなくできるだけその方自身をみたいと考えでした。もちろんそれは変わっていませんが、今回の留学に参加することで、将来海外で働いてみたいと思いました。実際にハワイで働いていらっしゃる日本人の医師とお話する機会があったのですが、ほんとにとんでもない努力をされたのだなと思いました。相当な努力を成し遂げたからこそ今の今があるという言葉が当てはまっていました。CBTに追われたり、国試に追われるだけでなく、医療英語も勉強し、全てクリアな様子、それでいて海外で生活されている姿にとても感銘を受けました。将来海外で働きたいという願望は誰もが口だけなら言えますが、それを実行するのがいかに難しいかも実感しました。

またハワイの学生さんだけでなく、日本各地から様々な学年の学生さんがいらしたので、とても将来の勉強になりました。地元民しか知らない各県の特徴や、今のうちにしておいた方がいいこと、将来どう進もうとしているかなど聞くことが出来ました。コミュニティーが広がったのと同時に、自分の将来の可能性を広げることが出来ました。

2) 次の海外留学への関心

6年生時の留学でもハワイの留学や台湾の留学があるとお聞きしました。今回の留学では、日本人も沢山いらっしゃいましたし、助けをすぐ求められる状況にありましたが、6年生の実習ではもっと自力で生きないと行けないと思うので、日本でも語学力、コミュニケーション能力を上げたいと思います。これから自分の英語力をさらに上げて、実習でもついていけるように頑張りたいと思います。また、医学だけではなく、語学留学もぜひ参加して自分の将来の可能性を広げたいと思います。

ハワイ大学臨床推論 WS に参加した成果

1. 留学・学習・交際理解への意欲に関して、参加前/後での変化

留学前は、自分の英語力に不安があった。学校の授業や部活に追われていて、留学前に覚えようと思っていた単語も覚えきれず、英会話も毎日ではできていなかった。しかし、実際に留学をしてみると JABSOM の生徒がフォローしてくれたり、周りの留学生と協力したりすることで留学を満喫できた。ただし、JABSOM の生徒と話すと、あちら側が聞こうと努力してくれる場合は会話を楽しむことができるが、JABSOM の生徒同士で話している内容になると英語が早くなり、ついていけない場面が何度もあり、悔しい思いをした。参加前は医学英語を磨くことを重点に置いていたが、私の場合は日常会話についてもネイティブのスピードでせめて聞き取れるくらい練習すべきだった。医学英語と日常会話はどちらも今後の課題となる。

学習に関しては、直前に学んだ呼吸器や循環器の疾患について復習していたのはよかった。しかし、すらすらと英語が出てこなかったり、あれってなんだっけと度忘れするとも多々あったので、もう少し完璧になるまで復習すべきだった。特に、JAMSOM の生徒は PBL を回してくれる中で、困ったときや各疾患の内容など質問するとすらすらと答えていた。これは常日頃から自分の言葉で説明できるまでしっかり勉強しているからだと思う。同じ医学生として、勉強への姿勢があまりにも違い、恥ずかしく思った。私たちが話し合いだけでなく、Learning Issue で実りのあるものになるように勉強すべきだった。また、Need to know で項目分けしている点や Google Form で PBL の板書を共有しているところは佐賀もすぐに取り入れられると思った。

国際理解については、ハワイはアメリカなので医療格差があることは知っていた。しかし、ホームレスが多く、アメリカ本土からも過ごしやすく、手厚いフォローがあることからホームレスが集まっていることは知らなかった。また、ハワイ島よりも小さなオアフ島の中にも自然の多い田舎の地域では、病院まで 45 分かかることは衝撃だった。また、ハワイのオアフ島とハワイ島を除く島では、医師不足が深刻で日本と同じように地域医療が課題の一つに挙がっているのも驚きだった。

2. 次の海外留学への関心

今回のハワイ留学は、もちろん自分の英語力、医師としてのスキルを磨くうえで挑戦してみたいという気持ちもあったが、同じ部活の先輩方がとても充実して楽しいよという声をかけてくれたのがきっかけだった。もちろん、今の自分の英語力でも WS 自体は問題なく参加できたが、もっと医学英語を覚えて、医学知識をつけて、日常会話をより自然にできていけば、より収穫の多い留学になったと思う。だから、これから次の臨床の時期にある留学を目標に、今から医学英語をマスターして日本医学英語検定試験の3級に合格すること、今すでに学んだこととこれから学ぶことを自分の言葉だけで説明できるまで身に着けること、日常会話をネイティブのスピードで楽しめるまで英会話に取り組んだり、今回関わった JABSOM の生徒とメッセージを送りあったり、できることを頑張ってみようと思う。

また、自分の留学に向けて勉強を進めるだけでなく、後輩たちにこの WS の魅力を伝えていこうと思う。そして、佐賀大学と JABSOM の生徒との交流を続けていけるようにしたい。特に、今回の留学で JABSOM の生徒がたくさんおもてなしをしてくださったので、来年来る JABSOM の生徒にもたくさんおもてなしをして、恩返しの輪を広げていきたいと思う。

ハワイ大学臨床推論 WS に参加した成果

1. 参加前の意欲・関心

私は海外医学教育に関心はありましたが、実際に海外の医学生や医師と交流する機会はありませんでした。そのためハワイ大学の臨床推論 WS に興味を持ちました。特に、佐賀大学でも行なっている PBL をハワイ大学で経験することで、佐賀大学でのこれからの PBL に活かすことができると考えました。

2. プログラムで得た成果

(1) 喫煙対策 (Smoking Cessation)

Smoking Cessation では、日本人の医師が評価者として私の問診の様子を観てアドバイスをくださいました。アメリカでレジデンシーとして働く日本人医師の存在を知り、日本出身で海外で活躍する方と実際にお話できたことは、私にとって非常に刺激的で、海外臨床研修への興味を強めるきっかけとなりました。また、喫煙対策を患者面接や試験形式で実施するスタイルは、あまり経験がなかったので、新鮮で実践的な学びとなりました。

(2) PBL での学び

PBL の進行方法は佐賀大学と少し異なっており、特に Step 2 での情報整理と発表を、より分かりやすく伝えることの重要性を実感しました。さらに、JABSOM の学生は Hypothesis や Step 2 での発言に対して必ず肯定的なコメントやうなずきを返してくれ、その温かい態度がとても印象的でした。このようなフィードバックは、学びのモチベーションを高めるうえで大きな意味があると感じました。

(3) 模擬患者 (Standardized Patient) との実践経験

模擬患者さんに協力していただく診察・問診はほとんど経験がなかったため、とても貴重な機会でした。特に「shortness of breath (呼吸困難)」の問診や聴診から疾患を鑑別する過程では、臨床推論の面白さを感じることができました。患者さんとのやりとりを通じて、症状の聞き取り方や身体診察の流れを英語で実践できたことは、今後の学習にも大きく役立つと感じています。また、聴診以外にも Tactile Fremitus や患者さんの補助の仕方など身体診察の方法を学ぶことができました。

(4) Injection Clinic

注射の実習は、日本でも学ぶ機会がなかったので実施前は緊張と不安が大きかったです。実際に成功したことで自信に繋がりました。注射の実習では、筋肉注射、皮下注射、自己注射の3つを経験することができました。プログラム全体を通して、最も印象に残った活動の一つです。将来患者さんにインスリン注射などを処方する前に、自分自身が自己注射を経験できたことはとても貴重な体験だったと感じています。

3. 参加後の意識の変化

今回のWSを通じ、JABSOMの学生の高いモチベーションや温かい態度に触れたことで、自分自身の学習意欲が大きく刺激されました。また、異なる教育スタイルの中で学ぶことで、自分の学習態度や学習方法、モチベーションを見直すきっかけとなりました。特に、早くからシュミレータや学生同士で実技を習得することや学生同士の協力、チーム医療、肯定的フィードバックの重要性を実感しました。

4. 次の海外留学への関心

今回の経験を経て、今後はより長期的な海外臨床実習にも参加したいと考えています。医療現場での実習を通じて、多様な医療システムと患者背景を理解し、診療スキルと国際的視野を広げたいと考えています。また、臨床推論や患者対応能力を磨き、将来的には医療チームの一員として貢献できる医師を目指したいと考えています。

5. まとめ

ハワイ大学臨床推論WSは、PBLでの推論の方法、異文化理解、モチベーションを同時に高められる貴重な機会でした。今後もこの経験を勉強に活かし、医療現場で活躍できるよう、日々の学習と実践を積み重ねていきたいと考えています。